

大人のニット／コートとダウン／女子会

クワツサン

# Premium

輝く自由な50代へ

プレミ

秋の  
ファッション特集  
第2弾

2011  
No.49

定価

浅田美代子  
引き算コート

おしやれになつた  
ニットはもうままで

”あると便利”な  
羽織ものではありません



大人の冬は、  
このふたつがあれば  
女優コート  
きちんとダ

スキンケアだけががんばってもきれいな  
大人なら、  
ファンデーション  
味方に付ける

編集部が全力で選びました！  
プレミアム世代の女子  
こんなお店で盛り上がり  
注目のデザイナーから洗い方まで  
知っておきたいニットの基  
ザ・ベニンシュラ香港のスタッフが  
「私たちの好きな香港





(Milano のニット工房 01)

天然の染料で染める自然な色がミラノでも人気。  
マッシモ・アルバさんを工房に訪ねました。

「たとえば最高級のコットンシャツは、それを着たことのない人には見分けがつかない。一方、着たことがある人には、ひと目見ただけでそれとわかる。そんな『着る達人たち』と、『他の人と違うスタイルでいたい人』のために上質なものを作りたい」とマッシモ・アルバさんは言う。

ページュやグレー、黒など落ち着いたトーンで知られる彼のカシミアニットは、弁護士からアーティストまで職業を問わず、「趣味のいいニット」と愛されている。

学生時代に建築を学んでいたマッシモさんがニットデザイナーになったきっかけは、インドへの旅。草木染めやバシユミナなどのインド素材に魅せられ、イタリアに戻るとカシミアとシルクを使って、ニット作りを開始、カシミアの端を切りつ放しにしたニットが注目されて、Milano(マロ)のデザイナーに抜てきされた。

自分のブランドでは、白い糸を天然の染料で染め、季節や森や川の色など、自分が感じる自然を表現する。「自然の色は心を鎮める効果がある」と言う。デザインだけでなく、制作から販売までをコントロール。「ハードだが、世界観を守りたい」とこだわる。

長い間、ラグジュアリーで上質なニットを作りつづけてきた彼が行き着いたのは、人の気持ちに動かす。物作りだという。結婚したときには、カップルのためのニットを、子どもが産まれたときには、子ども向けのニットを作りだした。「僕の服を着て幸せを感じてほしい。着ているうちに体の一部になっていくような、そんなニットを作りたいと思うんだ」



モヘア70%、シルク30%、薄手で柔らかいカーディガン。5万7750円(マッシモ アルバ/コロネット)



美しいサーモンオレンジのカーディガン。カシミア100%。6万6150円(マッシモ アルバ/コロネット)

マッシモ・アルバ★マロのデザイナーを11年間務めたのち、アニオナ、バラタインなど有名ニットメーカーのデザイナーを経て、2007年自分のブランド「マッシモ・アルバ」を開始。現在は、ニット以外にも靴や帽子、ショールなどの雑貨も手がけている。ニューヨークのパーニーズにもコーナーがある。

マッシモさん  
ニット作り



6 できあがったパーツを最後に組みつける。



5 デザイン画をコンピューターにインプットし機械編み開始。



4 彼のニットの定番3色。化学薬品を使わず染められた糸。



3 一番大切な縮絨。じっくり編んで、洗って縮み目を調節する。



2 ボタンの色や形にもこだわり、最後まで選ぶマッシモさん。



1 1点ずつ丁寧に仕上げをしていく。すべて手作業で行う。



ジェノバの町で見つけたアンティーク家具でコーディネートされた店内。広々と美しい空間。

# ていねいに作って長く付き合う ニットデザイナーが 物作りにかける、深い思い。

ミラノ  
特別取材

世界に名だたるニットメーカーが多いイタリアで、注目の2人のデザイナーを取材しました。いくつもの工程を経て生まれる作品のようなニット。デザイナーの物作りに対する思いとは？

撮影/フランキー・ヴォーン 取材・文/坂本まよえ Photo: Frankie Vaughan Text: Kiyoe Sakamoto



●ブレラ美術館やブレラ美術学校にも近く、シックなブティック街にあるマッシモ・アルバの店舗。Via Brera 8 Milano ☎+39-02-72-09-34-20 営業時間15:30~19:30、火~土曜10:30~19:30、日曜・祝日休 w [www.massimoalba.com](http://www.massimoalba.com) 日本での問い合わせはコロネット☎03-5216-6515まで

天然染料で優しく染めた、心を鎮める上質なニット。

[マッシモ・アルバ]

massimo alba